

大規模災害発生時における身元不明犠牲者の歯からの個人識別

溝畑 正信

The Personal Identification from the Dental Information of Unknown Victim at the time of a Large-Scale Disaster

Masanobu MIZOHATA

ABSTRACT

The department of police dentistry was established in the Osaka Dental Association in 1992. Based on the memorandum of the president of Osaka-Dental-Association and the chief of the criminal investigations of Osaka police headquarters, members of the department of police dentistry have striven judgment and search for cases or accidents from the dental information at the investigation of the personal identification comparing with the information while living. Moreover, the members of Osaka dental association cooperate with Osaka police in various forms including a criminal-investigation partnership of the identification of unknown person by a provision and collation of dental records or dental X-ray films . In order to advance this partnership further and to aim the enlightenment of the sense of the members of federation-of-dentists, to improve in a sense of responsibility, all members of Osaka-Dental Association are police partnership odontologists.

In the work to the personal identification from the dental information of unknown victim at the time of a large-scale disaster , we police dentistry team members have participated in the emergency discipline which Osaka prefecture or the Osaka cities, towns and villages in the prefecture, and Osaka police sponsored. Providing for the aircraft accident, the training of the fire-extinguishing and the rescue operation are held every year in Kansai International Airport since 1994 . Since starting of our police dental activities , we join those training, and carry out the postmortem dental records, dental chart, dental X-ray film and dental photograph of the corpse which fell victim in the disaster, by comparison with antemortem dental information (dental chart, dental X-ray film, dental photograph, dental models, etc).

Moreover, we carry out the cooperation with Osaka police for inquest training at the

numerous corpse, such as inquest supposing a fraught large-scale disaster.

Key words: Personal Identification, Forensic Odontology, Unknown Victim, Large-Scale Disaster

1. はじめに

大規模な自動車事故、大型旅客機の墜落、旅客列車の衝突、船舶の衝突など、交通機関による事故だけでなく、ビルや施設の火災、地震や火山の噴火などの災害のように、一度に多数の死傷者が出る事故は予知予測なしに起こる。

その際には、生存者の救命、事故後の処理・対策、死体検案活動など、医療関係、警察、消防ほか、行政機関の連携が大切になる（図1）¹⁾。

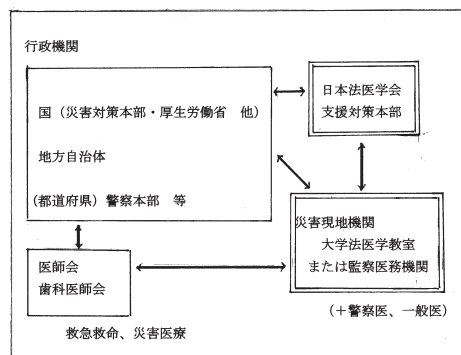


図1 大規模災害事故時の連携

死体検案を行うに当たっては、死因の決定、受傷機序の解明、死後経過時間の推定など通常の検案内容に加え、さらに個人識別が重要な要素となる。血液型検査、歯科診療録を参考にした歯牙検査が有効となることが多い。

今回著者は、いつ起きるとも知れない大規模災害発生時における身元不明犠牲者の歯からの個人識別について、現在の対応について述べ、今後を考察する。

2. 大阪府歯科医師会の体制

大阪府歯科医師会においては、1992年に警察歯科対策推進室が設置された。それ以来、大阪府歯科医師会長と大阪府警察本部刑事部長との覚書に基づいて、警察歯科対策推進室では事件や事故等に関わる身元不明者の歯科的所見による個人識別の鑑定および身元不明者の搜索協力を努めてきた（表1）。

表1 大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室の推移

1992年7月14日	理事会協議事項で室の設置承認
1992年10月1日	第1回委員会開催
1993年3月23日	大阪府警察本部刑事部長と身元不明死体の身元確認業務に関する覚書締結
1993年9月16日	初めて支部への捜査協力依頼を実施
2000年3月30日	大阪府警察本部刑事部長との覚書を変更し再締結（検死に関する消耗品代、謝金の明記）
2002年8月24日	第1回警察歯科医会全国大会に参加（長野県）（以後毎年参加）
2003年7月28日	会員へ大阪府歯科医師会会員証および大阪府警察協力之証を送付
2009年4月	室員数32名に（従来15名）

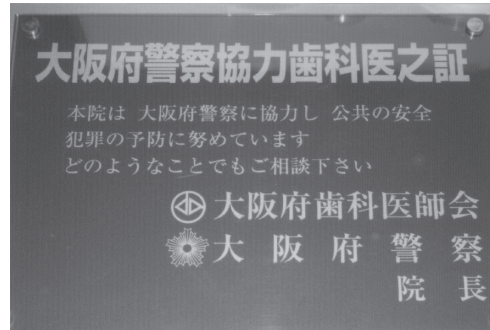


図2 大阪府警察協力歯科医之証

また、大阪府歯科医師会会員にあっては、歯科診療カルテや歯科レントゲン写真の提供や照合による身元不明者の捜査協力をはじめとして種々な形で、大阪府警察に協力してきているところである。この協力をさらに進め、また歯科医師会会員の一層の意識の啓発、責任感の向上を図るため、全会員が警察協力歯科医になっている。大阪府歯科医師会会員には写真入り会員証が発行され、大阪府警察協力歯科医の証というプレートが配布されている（図2）。

大規模災害発生時における身元不明犠牲者の歯からの身元確認に対する取り組みでは、警察歯科対策推進室発足以来、大阪府あるいは大阪府内市町村と大阪府警察主催の防災訓練、関西国際空港での航空機事故消火救難総合訓練に参加して、事件、事故で犠牲となった遺体の口腔内所見の作成、口腔内写真の撮影、レントゲン撮影をし、生前の資料との照合による身元確認の訓練を実施している。また大阪府警察刑事部検視官室主催の多数死体を伴う大規模災害を想定した検視等訓練に参加し、警察との連携を行い、協力関係を構築している。

なお、レントゲン撮影は、日常の臨場協力要請では、従来のフィルムを使用し、現像しているが、訓練では、デジタル装置を準備している。

表2 現在の大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室の構成（32名）

室長	（大阪府歯科医師会理事）
副室長	5名（内、大阪府歯科医師会理事4名）
室員	26名
大阪国際空港エリア	……… 豊中市支部会員、池田市支部会員
八尾空港エリア	……… 八尾市支部会員
関西国際空港エリア	……… 泉佐野南支部会員
その他検死出務経験、知識のある会員	

警察歯科対策推進室の構成は、従来、室長、副室長、室員13名の計15名であったのが、2009年度から室長、副室長5名、室員26名の計32名と、増員した人数で構成され、近頃の増加している検死臨場要請、大規模災害に対応できるよう、警察歯科の実務経験を積むよう養成している（表2）。

3. 大阪府・府内市町村防災訓練

1995年度 9月1日 大阪市北区、旧国鉄梅田駅南貨物跡地で開催された、大阪府・大阪市合同震災総合訓練に参加

1996年度 8月30日 大阪市此花区ゴルフ北港跡地で開催された、大阪府・大阪市合同震災総合訓練に参加

1997年度 9月1日 大阪市此花区桜島2丁目（JR桜島駅北）で開催された、大阪府・大阪市合同震災総合訓練に参加

1998年度 9月1日 舞洲スポーツアイランドで開催された、大阪府・大阪市合同震災総合訓練に参加

1999年度 11月11日 新日本製鐵（株）堺製鐵所及びその周辺で開催された、近畿府県合同訓練に参加

2000年度 10月28日 大阪府熊取町立町民グラウンドで開催された、大阪府・熊取町合同防災訓練に参加

2001年度 9月7日 豊中市大阪府営公園服部緑地スポーツ広場で開催された、大阪府・豊中市・池田市・箕面市・豊能町・能勢町合同防災訓練に参加

2002年度 9月7日 寝屋川市太閤公園で開催された、大阪府及び北河内地区合同防災訓練に参加

これらの訓練では、警察、消防、交通、医療、ライフライン関連企業など、多くの機関が参加し、我々は多数の遺体の口腔内所見の作成、口腔内写真の撮影、レントゲン撮影、生前の資料との照合による身元確認の訓練を行っている。

4. 関西国際空港航空機事故消防救難総合訓練

関西国際空港航空機事故消防救難総合訓練は関西国際空港及びその周辺で航空機事故が発生した場合に備え、迅速かつ適切な消防救難・救急医療活動を実施することを目的として実施されている。訓練には自衛隊、警察機関、消防機関をはじめ60を超える機関が例年参加している。

2005年度には事故やトラブルの発生しやすい夜間の時間帯において初めて訓練が実施された。本訓練は1994度より実施されており、大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室としては1997年度より毎年参加し、搬入された多数の遺体の口腔内所見の作成、口腔内写真の撮影、レントゲン撮影等の歯科所見の記録をし、生前の資料との照合による身元確認の訓練を行っている。遺体役には、警察官、看護学校の学生が務めている（図3～9）。



図3 関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練の様子



図4 関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練の様子



図5 関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練での遺体の搬入



図6 関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練での遺体の口腔内レントゲン写真の撮影



図7 関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練での遺体の口腔内写真の撮影



図8 関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練での遺体の歯科所見書の作成



図9 関西国際空港航空機事故消火救難総合訓練での遺体の記録—パソコンへのデジタル写真やデジタルレントゲン写真の入力、ならびに生前の資料との照合等

5. 大阪府警察本部刑事部検視官室主催の大規模災害等を想定した検視等訓練

2009年5月19日、大阪府警察本部において刑事部検視官室主催で、多数死体を伴う大規模災害等を想定した検死等訓練が実施された。これは、大阪府警察広域緊急援助隊設置要綱に基づき、多数死体を伴う災害、事件・事故発生の際の検視等の体制の確立、具体的な任務付与等の検視に関連する手順等を再確認することを目的として実施されたものである。大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室員である著者はアドバイザーとして参加し、講演した。

6. これまで取り扱った検死事案数

大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室が1992年7月に発足して、今年で18年になる。発足以来、2010年9月30日までに大阪府警察から要請を受け歯科所見からの身元確認のための検死依頼を受けた件数は365件で、ここ5年を見ると、2005年16件、2006年13件、2007年19件、2008年29件、2009年35件、2010年は9月30日までにすでに39件と、この3年で急増している状況である。

7. 考察

1985年の群馬県御巢鷹山麓で起き、520名が死亡した日航機墜落事故、1994年の名古屋空港で起き、264名が死亡した中華航空機墜落事故、2005年の107名が死亡したJR福知山線列車脱線事故、2001年の新宿歌舞伎町ビル火災で、44人死亡、2008年の大阪難波雑居ビル火災個室ビデオ客15人死亡、1995年の兵庫県南部地震では6432人が死亡、2004年の新潟県中越地震では67人死亡、1991年の雲仙普賢岳火砕流災害では43人が死亡している。

こういった大事故、大災害に際しての多くの死亡者に対する歯牙鑑定による身元確認は極めて大きな役割である²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾。

大阪府歯科医師会では、2009年度に警察歯科対策推進室を、大規模災害に対応できる組織化を目的として増強した。今後は56支部全てに室員を配し、研修会ならびに連絡協議会を開催するとともに、所轄の警察署との連携を図っていくことが必要と考える。日本歯科医師会においても、全国都道府県歯科医師会の警察歯科医の連絡協議会を設立し、相互の情報交換と連携の強化のための研修会を開催する必要があると考える。また、研修会のためのマニュアルの作成も必要と考える。

大阪府では幸い大災害、大事故等は起こっておらず、大規模災害による多数死体の検死等に対して、大阪府歯科医師会は未経験であるが、いつ何が起こるか分からない。

大阪府警察主催の「多数死体を伴う大規模災害を想定した検視等訓練」への参加及び講師派

遣、大阪大学及び大阪市立大学関係法医研修会への参加、関西国際空港航空機事故消防救難総合訓練への参加等により、警察歯科医の資質の向上に努力すると同時に、大阪府警察との協力のために様々な連携に努める必要があると考える。

参考文献

- 1) 福島弘文編「法医学」改訂2版 南山堂 85-86頁、2009.
- 2) 溝畑正信・中西正尚：「大阪府歯科医師会警察歯科対策推進室の取り組み」、日本法歯科医学会雑誌、第1巻・第1号：55-58、2008.
- 3) 溝畑正信：ミイラ化死体の歯からの個人識別、大阪経済法科大学地域総合研究所紀要 創刊号、161-170、2008.
- 4) 溝畑正信・緒方惟幸・篠田修：「火葬された歯牙からの個人識別2例」、大阪経済法科大学 科学技術研究所紀要、11、19-27、2006.
- 5) 溝畑正信：「白骨死体の歯からの個人識別4例」、国際歯科学士会日本部会誌、39、104-114、2008.
- 6) 溝畑正信・中西正尚：「ミイラ化した死体の個人識別」、日本法歯科医学会雑誌、第2巻・第1号：44-46、2009.
- 7) 溝畑正信・赤根賢治・岡本学：「焼死体の臨場協力要請例—歯からの個人識別」、日本法歯科医学会誌、第3巻・第1号：47、2010.